



国内  
活動

## FGC Presents 大熊こぐまキャンプ in 山梨県道志村を実施しました



### 大熊町のこどもたち、初めての本格キャンプを体験!

福島県大熊町は、東日本大震災後の原発事故により全町避難を余儀なくされ、長い間こどもたちの声が町から消えていました。2023年、ようやく学校が再開し、こどもたちが少しずつ故郷に戻りはじめましたが、いまだに生活の制限や心のストレスを抱える子も少なくありません。

こうした中、星槎グループが立ち上げた一般社団法人 Dream Forest Supporters が、放課後児童クラブ「ゆめの森」を運営し、日々こどもたちの成長を支えています。世界こども財団でも、2023年には遊具やおもちゃなどの寄付を行い、大熊町のこどもたちへ支援を続けてきました。

そして今年の夏、そのつながりから生まれたのが「FGC Presents 大熊こぐまキャンプ in 山梨県道志村」です。自然の中で思い切り遊び、楽しい体験を通じて心身のリフレッシュと交流を促すことを目的に、大熊町のこどもたちを招待しました。児童クラブのこどもたちにとって、大人数でのキャンプ宿泊は今回が初めての体験でした。



開所式の様子

### 笑顔と絆が広がった3日間

7月23日から25日までの2泊3日、31名のこどもたちとスタッフ11名が、山梨県の豊かな自然に囲まれたキャンプ場「ネイチャーランド オム」を訪れました。



飯盒炊爨と  
カレー作りに挑戦!



笑顔いっぱいの夕食時間

初日は、到着後の開所式を終えてさっそく夕食づくり。班ごとに協力して、飯盒炊飯でご飯を炊き、カレーを作りました。うまく炊けた班も、少し焦がしてしまった班も、みんな笑顔いっぱいで、完成したカレーを分け合い、美味しく味わいました。大自然の中を元気に駆け回るこどもたちの姿に、スタッフの顔も思わずほころびました。夜は花火タイム。手持ち花火の小さな光を囲んで歓声を上げました。



2 日目は、朝食のカートンドッグ作りからスタートしました。牛乳パックを使ってホットドッグを焼くユニークな調理方法に大変盛り上がり、こどもたちから大好評でした。午前はマス釣り、自然観察やネイチャーゲーム、昆虫探しを楽しみ、午後は川遊びやすいか割りに挑戦しました。夜には、BBQ とキャンプファイヤーも行われ、朝から夜まで盛りだくさんの一日となりました。星槎国際高校の在校生・卒業生が中心となって起業した「テックラフト」の皆さんも駆けつけ、ドローン撮影やかき氷をふるまいキャンプを盛り上げてくれました。炎を囲みながら歌い、笑い合う時間は、こどもたちにとってかけがえのない夏の思い出となりました。



カートンドッグ作り



「テックラフト」のかき氷



キャンプファイヤーで炎を囲みながら歌いました



川遊びも楽しみました

最終日は、忍野八海と淡水魚の水族館「富士湧水の里水族館」を訪問し、自然や生き物に触れながら学びの時間を過ごしました。3 日間を共に過ごした仲間との別れを惜しみつつ、こどもたちは「また来たい!」「楽しかった!」と笑顔でバスに乗り込みました。小学校 1 年生から中学校 3 年生までの幅広い年齢層のこどもたちが参加しましたが、家族から遠く離れて、自然の中で友達と過ごす体験は、とても新鮮で貴重な時間となりました。



忍野八海で自然に触れ合う



富士湧水の里水族館で学びの時間



釣りをたのしむこどもたち

## 「みんなで作ったカレーの味は忘れられない」

### 中学 1 年生の感想より

学校の仲間たちと山梨県道志村で過ごした 2 泊 3 日は、あっという間でした。普段はなかなか友達とお泊まりをする機会がなく、夏休みも家にいることが多かった私にとって、このキャンプは本当に特別な時間でした。ネイチャーゲームや魚釣り、川遊び、夜の花火など、普段はできないような自然体験をたくさんできて、心から楽しむことができました。コテージで友達と朝も夜も枕投げをして大笑いしたことも、忘れられない思い出です。様々なプログラムの中でも、私が一番心に残っているのは、みんなで協力して作ったカレーライスです。普段あまり料理をしないので少し不安もあったけれど、友達と助け合いながら作ったカレーは、いつもよりずっと美味しく感じました。

## 大熊町のこどもたちの未来を応援

今回のキャンプは、ゆめの森のスタッフの方々、そして多くの支援者の協力によって実現しました。大きなけがやトラブルもなく、全員が元気に帰路につくことができたのは、皆さまの温かいご支援のおかげです。

世界こども財団では、今後も大熊町との関係をさらに深めていけるよう支援活動を続けていきます。大熊町のこどもたちが、自分の町を誇りに思い、未来を信じて歩めるよう、これからも温かく見守っていきます。



星槎のバスで帰路につきました





## 日本語能力試験「N3」に合格しました！

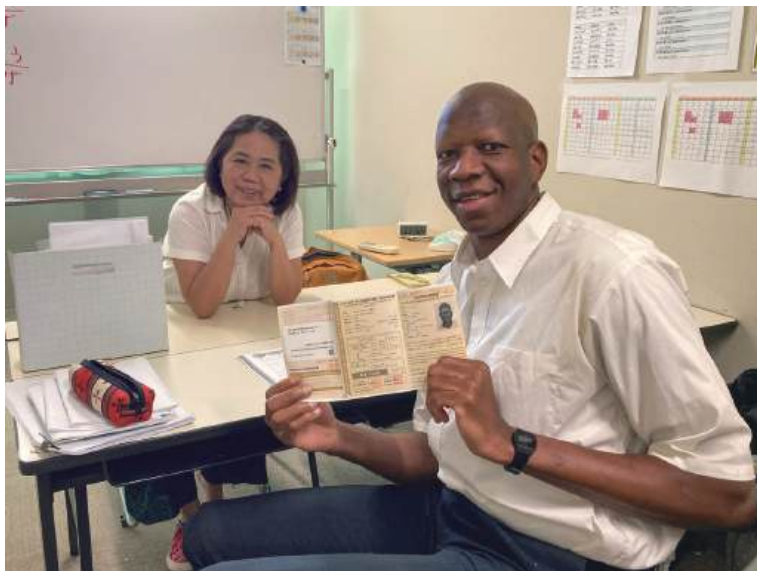


マリ共和国からのスポーツ留学生アルマム・サリフ・ドゥンビアさんが、7月6日に行われた日本語能力試験（JLPT）N3レベルに見事合格しました。これまでN5、N4と順調にステップアップしてきたアルマムさんですが、N3はより幅広い場面で日本語を理解する力が求められる難関でした。

試験当日、会場となったパシフィコ横浜には多くの受験者が集まり、緊張感の漂う中で4時間以上にわたる試験が行われました。終了時には夜の8時を過ぎていましたが、アルマムさんは「難しかったけれど、手応えはありました」と笑顔で語ってくれました。

男子バスケットボール専攻での日々の練習に励む一方、日本語の勉強にも全力で取り組んできたアルマムさん。授業後や練習のあとも遅くまで自習を続け、日本語の先生やFGC職員とともに着実に力を積み重ねてきた努力が、今回の結果につながりました。

高校生活も3年生の後半に差し掛かり、卒業に向けてラストスパートの時期を過ごしています。現在は、次の目標であるN2合格に向けて、さらに挑戦を続けています。新しい目標に向かって進むアルマムさんのこれからにご期待ください。



日本語の先生と共に、合格を喜ぶアルマムさん

## 女子バスケットチームがウィンターカップ 2025 予選で優勝



チームメイトと共に

10月25日、26日に行われた、「令和7年度神奈川県秋季大会兼ウィンターカップ2025予選」で、星槎国際高校湘南の女子バスケットボールチームが見事優勝を果たしました。4年ぶり2回目の県大会制覇です。

ナイジェリア連邦共和国からのスポーツ留学生、1年生のオランレワジュ・ザイナブ・アビデミさんも、チームの一員として準決勝ではゴール下で活躍。決勝でもチームは終始リードを奪って、最後まで粘り強く戦い、勝利を収めました。

女子チームは、12月23日から東京体育館を中心に行われる「SoftBank ウィンターカップ2025 令和7年度第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ2025）」へ出場が決定しました。

男子バスケットボールチームも3年生留学生のアルマムさんを中心に快進撃を見せ、ベスト4入りを果たしました。準決勝では湘南工科大学附属高等学校に敗れましたが、第3位とチーム史上最高成績を更新。夏の走り込みや遠征で培ったチーム力を存分に発揮しました。

全国大会に挑む女子チーム、そして最後まで戦い抜いた男子チーム。世界こども財団はこれからも留学生の活躍を応援していきます。



試合でゴールを決めるアビデミさん







## ウガンダ共和国ナショナルデーに出席しました



「KOMOREBI 小学校」支援で協力した関係者と共に



華やかなウガンダの伝統ダンス

10月13日に閉会した大阪・関西万博ですが、世界こども財団は10月8日、ウガンダ共和国の「ナショナルデー」に出席しました。

ナショナルデーは、万博会期中に、公式参加者である各国が1日ずつ自国の文化や特色を紹介し、国際親善を深め、それぞれの参加を称える特別な日として設けられました。

ウガンダは10月9日が独立記念日であったことから、万博閉会間近にナショナルデーが開催されました。式典に合わせ、同国のロビナ・ナバンジャ首相も来日されたほか、伝統音楽や華やかなダンスが披露され、会場は大いに盛り上がり、参加者も熱気に包まれました。

世界こども財団は、駐日ウガンダ共和国大使館からご招待をいただき、参加することができました。会場では、支援している「KOMOREBI 小学校」を創設したNPO法人五条クラブの方々や、現地で出会った学生ボランティアの方とも再会でき、久しぶりの交流を喜びました。また、コモンス館のウガンダブースでは文化紹介のほか、ウガンダ特産のコーヒーも振る舞われ、来場者で賑わっていました。

万博は閉会しましたが、ここで生まれた国際交流の絆は、これからの未来につながる貴重な経験となりました。

## SEISA Africa Asia Bridge 2025 が開催されました

星槎グループ最大のイベントであるSEISA Africa Asia Bridge（通称 SAAB）が、今年も11月15日（土）に開催されました。

第11回目となる今回は天候にも恵まれ、アフリカ各国を中心に15の駐日大使館が参加し、総参加人数は1万人を超えました。

盛大に執り行われたオープニングセレモニーでは、今年も駐日エリトリア国大使館よりエスティファノス・アフォワキ大使にスピーチをいただきました。また、世界こども財団が支援活動を行っているウガンダ共和国の駐日大使館からも、初めてカーファ・トーファス大使にご出席いただくことができました。

世界こども財団では今年もチャリティブースを出展し、多くの来場者の皆さまに活動を知っていただく貴重な機会となりました。また、星槎国際高校湘南の留学生であるアルマムさん、アビデミさんもSAAB



SAABに参加したアビデミさん（左）、アルマムさん（中央）と駐日マリ共和国大使館公使参事官のパヨさん（右）



オープニングセレモニーでスピーチをいただいたエリトリアのエスティファノス大使

に参加し、各国からの参加者と交流を深めたほか、ブースの見学やキッチンカーで母国の料理を味わうなど、イベントを存分に楽しんでいました。特に3年生のアルマムさんは、来日直後にご挨拶へ伺ったマリ共和国大使館の公使参事官パトリス・ディビー・パヨさんと再会し、アルマムさんの成長に驚き、大いに喜んでいただきました。

「アフリカとアジアのかけ橋に」という願いを込めて続けてきたSAAB。今回も、多くの交流と学びが生まれる一日となりました。



2025年12月発行

公益財団法人  
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2（星槎グループ内）

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!

制作: 岡村直実（JCユニット）

